

基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

昭和38年の創設時に学校の目的を定め、学則(資料1-1--1)に掲げた。平成7年には専攻科の目的を定め、学則(資料1-1--2)に掲げた。この目的は現在に至るまで一貫している。

資料1-1--1

「本校の目的」

第1章 総則

(目的)

第1条 岐阜工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。

(出典 岐阜工業高等専門学校学則)

資料1-1--2

「専攻科の目的」

第8章 専攻科

(設置)

第37条 本校に専攻科を置く。

(目的)

第38条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

(出典 岐阜工業高等専門学校学則)

平成15年には、創立40周年を機に新たな教育の基本方針(資料1-1--3)、教育理念(資料1-1--4)、養成すべき人材像(資料1-1--5)を定めた。

資料1-1--3

「教育の基本方針」

本校への多様な役割が期待される中において、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるといふ使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成するというのが本校の教育方針であります。教育理念、教育目標及びその具体的な内容は不断に改善し、計画的に教育・研究活動を実行しています。より具体的には、以下に示すような「教育理念」、「養成すべき人材像」及び「教育目標」を高く掲げ、教職員はその目標に向かって努力します。

(出典 学生便覧)

資料1-1--4

「教育理念」

(1) 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。

(2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。

(3) 情報化社会の最前線で活動すること。

(出典 学生便覧)

<p>養成すべき人材像</p> <p>科学技術に夢を託し，人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者</p>	<p>資料 1 - 1 - - 5</p>
<p>(出典 学生便覧)</p>	

準学士課程及び専攻科課程の教育目標は資料 1 - 1 - - 6 及び資料 1 - 1 - - 7 に定めている。

<p>「教育目標」(準学士課程)</p> <p>1) 広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成</p> <p>2) 基礎学力を身につけ，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成</p> <p>3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成</p> <p>4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成</p> <p>5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成</p>	<p>資料 1 - 1 - - 6</p>
<p>(出典 学生便覧)</p>	

<p>「教育目標」(専攻科課程)</p> <p>(1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに，異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成</p> <p>(2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し，継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成</p> <p>(3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成</p> <p>(4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成</p> <p>(5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ，技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成</p>	<p>資料 1 - 1 - - 7</p>
<p>(出典 学生便覧)</p>	

教育目標は抽象的であり「教育の基本方針」にあるように努力目標である。各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標を(A)倫理，(B)デザイン能力，(C)コミュニケーション能力，(D)専門知識・能力，(E)情報技術に分類し，卒業生・修了生全員が達成すべき内容を定めた。教育目標と，具体的な学習・教育目標の分類との対応を資料 1 - 1 - - 8 及び 9 に示す。学生へ示す標語として，校長は(1)ものづくり，(2)国際化，(3)IT，教務では(1)広い教養，(2)深い専門，をあげている。標語との対応も合わせて同資料に示す。

「学校の教育目標，各学科で養成する学力や資質・能力等の具体的な学習・教育目標の分類及び標語との対応」
 は特に関与， は関与

養成すべき学力や資質・能力等 の学習・教育目標の分類 学校の教育目標 (準学士課程)	(A) 倫理	(B) デザイン 能力	(C) コミュニ ケーショ ン能力	(D) 専門知識 ・能力	(E) 情報技術
(1) 広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成					
(2) 基礎学力を身につけ，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成					
(3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成					
(4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成					
(5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成					
標語	広い教養	ものづくり	国際化	深い専門	IT

(出典 学生便覧)

専攻科課程の対応を資料 1 - 1 - - 9 に示す。

資料 1 - 1 - - 9

「学校の教育目標，専攻科で養成する学力や資質・能力等の具体的な教育目標の分類及び標語との対応」
は特に関与， は関与

養成すべき学力や資質・能力等の学習・教育目標の分類 学校の教育目標 (専攻科課程)	(A) 倫理	(B) デザイン 能力	(C) コミュニ ケーショ ン能力	(D) 専門知識 ・能力	(E) 情報技術
(1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに，異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成					
(2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し，継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成					
(3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成					
(4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成					
(5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ，技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成					
標語	広い教養	ものづくり	国際化	深い専門	IT

(出典 学生便覧)

養成すべき人材像及び学力・資質・能力等の具体的な教育目標を資料 1 - 1 - - 10～16 に示す。

資料 1 - 1 - - 10

「養成すべき人材像及び学力・資質・能力」
一般科目(人文)で養成する人材像

今の時代が求めるものは，ひとつには専門的な知識と技術に精通した高度な専門性であり，ひとつには国際事情と人類の歴史についての該博な知識，そして確固とした倫理観に基づく高い見識である。またそれを獲得し伝達するためにコミュニケーションしようとする意欲と能力である。技術，情報，知識を操るのは人間であり，人間的基盤の健全な育成のため教養的かつ実践的な教育に一般科目(人文)は取り組んでいる。

以上に基づき，一般科目(人文)では，以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている。

養成すべき人材像

- ・人類の歴史的な背景・文化を理解し，他者・他国の立場を尊重して社会問題を考えることができる広い視野と倫理観を持った人材
- ・日本語で十分に受容・発信できるだけでなく，外国語でも異文化に偏見を持つことなく受容・発信でき，獲得

した広い視野，高い見識，倫理観を実社会で活かすことができる人材

一般科目(自然)で養成する人材像

人間に役立つ工学を活用し発展させるには工学の基礎となる物理・化学分野の自然法則を理解し，科学的な考え方を養うことが大切である。数学は自然法則を適切に表現するために必要不可欠な手段であるから，その手法や考え方を十分に学習しなければならない。

現代社会で科学技術の成果を利用しながら人間らしい健康な生活を送るためには，保健の知識を修得する必要がある，また，体育の心身に与える効用を体験的に理解しなければならない。

以上に基づき一般科目(自然)では以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている

養成すべき人材像

- ・数学・物理・化学の基礎的な知識をもち，専門分野にそれを応用する能力のある人材
- ・心身の健康についての知識を持ち，健康的な生活を送ることができる人材

一般科目で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標

- ・人類の歴史的な背景・文化を理解し，他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
 - ・心身ともに健康な技術者たるために，健康管理能力および体力を身につけるとともに，芸術の鑑賞力，協調性，創造力，想像力などを培い，心のゆとりを育て，生活を豊かにする。
 - ・日本語で記述，発表，討論する能力の基礎を身につける。
 - ・英語，ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。
 - ・数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- 以上の学習・教育目標は準学士課程の各専門学科に共通のものである。

(出典 学生便覧)

人間としての倫理，芸術・保健体育に関する能力，コミュニケーション能力，数学・自然科学の基礎知識及びそれらを用いた問題解決能力は一般科目で対応し準学士課程のすべての学科に共通である。

資料 1 - 1 - -11

「養成すべき人材像及び学力・資質・能力」

機械工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

機械工学は「ものづくり」技術の根幹を成す学際領域である。「ものづくり」は機械製品の立案計画段階である(1)機械設計と，これに続いた製品を具現化する段階である(2)機械製作の2段階により構成される。

機械設計は，機械技術者の叡智と経験とを集約・統合することによって，はじめて実現される創造的な営みの発露である。機械技術者をめざす学生は，機械設計技術の基盤である数学，物理，及び情報技術等を修得することが不可欠である。さらに，これらの科学技術を基礎として，機械設計技術に直結した「材料力学」，「流体力学」，「熱力学」，及び「機械力学」を中心とした力学関連教科目を修得しなければならない。

機械製作は，機械設計技術者により考案された製品のイメージを，実際の製品として具現化する崇高な創造的プロセスである。機械技術者は 経済性，品質，工期，あるいは 環境保全・安全についての所定の制約条件下で，最適な加工条件を見出し実現する重責を担っている。機械技術者をめざす学生は，生産機械操作についての実践的能力のみならず，生産技術に深い関わりのある「機械工作法」，「計測工学」，「制御工学」，及び「システム工学」等の教科目を修得しなければならない。

一方，「ものづくり」を効率的に遂行するために，機械技術者は，道具としてのIT技術を修得することが必要である。また，国内外の「ものづくりチーム」の一員として活躍するためには，「コミュニケーション能力」，及び「倫理観に基づく社交性」が求められ，機械技術者をめざす学生にはこれらの能力を滋養することが期待されている。

以上に基づき，機械工学科準学士課程では，以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

機械工学科で養成すべき人材像

国際社会において機械技術者として活躍するための基礎学力を有し，社会情勢の急激な変化に柔軟に対処できる

情報処理能力と情報解析能力を備えた人材

機械工学科の学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

(A - 1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し，他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。

(A - 2) 機械技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する機械技術者としての倫理観の基礎を身につける。

(A - 3) 心身ともに健康な技術者たるために，健康管理能力および体力を身につけるとともに，芸術の鑑賞力，協調性，創造力，想像力などを培い，心のゆとりを育て，生活を豊かにする。

(B) デザイン能力の基礎を身につける。

(B - 1) 機械技術上の問題点や新たな課題を理解し，豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力の基礎を身につける。

(B - 2) 機械工学の基礎知識を活用し，着実に計画を継続して解析・実行し，得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力の基礎を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。

(C - 1) 日本語で記述，発表，討論する能力の基礎を身につける。

(C - 2) 英語，ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 機械工学とその基礎となる学際分野，及びその周辺の境界学際分野の知識・能力の基礎を身につける。

(D - 1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

(D - 2) 基礎工学（設計・システム，情報・論理，材料，力学）の基礎知識と能力を身につける。

(D - 3) 機械工学のうち，その周辺学際分野にも共通な分野（環境，創生，エネルギー，計測・制御，安全等）の知識と能力を身につける。

(D - 4) 機械設計技術者としての基礎知識を身につけ，この深度化と体系化を図るため次の4つの能力を修得する。

(1) 強度が保証され安全に利用することができる機械を設計するための材料の力学に関する能力

(2) 空気あるいは液体などの流体の力学的挙動を把握し，これを機械設計に適用する能力

(3) 機械の動力，あるいは利用効率に関わる物質の熱的な挙動を力学的に評価し，これを機械設計に適用する能力

(4) 機械の運動，あるいは振動についての力学的挙動を理解し，これを機械設計に適用する能力

(D - 5) 機械工学とは異なる技術分野にも興味を持ち，これらと機械工学の知識とを複合する能力の基礎を養う。

(E) 情報技術を身につける。

情報機器を使いこなし，情報処理システムのプランを構築する能力の基礎を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1 - 1 - -12

「養成すべき人材像及び学力・資質・能力」

電気情報工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

電気情報工学科では，近年の急速な電気・電子・情報技術の進展や今後の各種技術革新にも対応でき，国際性や倫理観を有する技術者を養成するため，情報化社会の基盤をなす電気・電子・情報の各分野についての基礎的な技術と知識を身に付け，高度細分化した専門技術や知識の自立的な修得を可能とする教育を目指している。本学科ではこの目標を効率的に達成するため，学生の資質に応じた教育を可能とする，コース別カリキュラムを四年次より導入している。電気電子工学コースと情報工学コースに分かれた教育カリキュラムにより，専門的技術と知識の効率的な修得を可能とし，電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけると共に，社会の要求に応えることのできる高度な専門技術と知識を修得した技術者の養成を目指している。

以上に基づき，電気情報工学科では本校「A B E Eプログラム」と対応して以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけると共に、社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していける能力を身につけた技術者

学習・教育目標

(A)倫理を身につける。

(A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。

(A-2)電気・電子・情報技術が地球環境に及ぼす影響等を自覚する技術者としての倫理観の基礎を身につける。

(A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B)デザイン能力を身につける。

(B-1)電気・電子・情報に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で問題を解決していくための計画を立てる能力を身につける。

(B-2)電気・電子・情報工学の基礎知識を活用して計画を実行し、得られた成果を解析して論文にまとめていく総合的なデザイン能力を身につける。

(C)コミュニケーション能力を身につける。

(C-1)日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。

(C-2)英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D)電気・電子・情報工学とその基礎となる学際分野及びその周辺の境界学際分野の、知識・能力の基礎を身につける。

(D-1)数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

(D-2)設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識とその応用能力を身につける。

(D-3)電気・電子・情報工学の周辺学際分野の共通分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の基礎知識とその応用能力を身につける。

(D-4)電気電子コース・情報コースにて、両コースに共通する基礎知識をバランス良く身につけるとともに、社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していける能力を身につける。

(1) 電気・電子・情報工学の基礎となる主要な知識を身につけ、その応用能力を身につける。

(2) 電気電子コースでは、電気・電子工学分野の基礎知識を身につけ、応用的な専門技術や知識を自立的に修得していける能力を身につける。

(3) 情報コースでは、電子・情報工学分野の基礎知識を身につけ、応用的な専門技術や知識を自立的に修得していける能力を身につける。

(E)情報技術を身につける。

(E-1)情報機器を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた企画・構築・表現化の基礎知識と能力を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1 - 1 - -13

「養成すべき人材像及び学力・資質・能力」**電子制御工学科で養成する人材像及び学習・教育目標**

近年における電子制御技術の進歩に代表される各種技術に柔軟に対応できる技術者の育成を目的とし、電子制御技術の高度化や専門細分化の進化に伴う時代の流れを適切にとらえ、その基礎となる基礎技術の習得ならびに、その応用展開としての電子制御システムの運用に実践的に関わることができる学生を育てることを教育目標とする。そのため、電気・電子、情報・制御、機械関連技術を統一的見地から総合的に駆使して、将来において、より高度で環境に配慮した知的システムを創造的に構築し展開できる人材を育成することが、電子制御工学科の社会的役割である。

以上に基づき、電子制御工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

電気・電子、情報・制御、機械関連の基礎知識と考え方を身につけ、国際化する高度情報化社会の要求に応え、電子制御・情報制御技術を基礎として、創造的な技術改良・技術開発ができる能力を身につけた技術者。

学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。
 (A - 1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
 (A - 2) 電子制御技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理を身につける。
 (A - 3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力を身につける。
 (B - 1) 電気・電子、情報・制御、機械に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。
 (B - 2) 電気・電子、情報・制御、機械の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。
 (C - 1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
 (C - 2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 電子制御工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力を身につける。
 (D - 1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
 (D - 2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。
 (D - 3) 電子制御工学の周辺学際分野にも共通な分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の知識と応用能力を身につける。
 (D - 4) 電子制御工学の専門分野における基礎知識を身につけ、それを活用して電子制御システムを運用できる能力や、社会の要求に応じて専門知識と技術を修得していける能力を養う。
 (1) 電気・電子工学を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。
 (2) 制御・情報、機械を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。

(E) 情報技術を身につける。
 情報機器を使って、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた企画・構築・表現化などを行うための基礎知識と能力を身につける。

(出典 学生便覧)

「養成すべき人材像及び学力・資質・能力」

環境都市工学科で養成する人材像および学習教育目標

「社会基盤」と呼ばれるモノ、それは例えば、車で走る、電気がつく、水を飲むといった当たり前の生活環境を支えているモノであり、通信・物流・輸送といった安全かつ円滑な社会活動を支えるためのモノであり、なにより自然災害から国土を守るためのモノである。これらはすべて我々にとって必要不可欠な存在であり、どのような世の中になっても決して無くなるものではない。そして、これらを実現する仕組みづくりが「社会基盤整備」なのである。

わが国の世界に冠たる社会基盤整備技術は、日本はもとより、人類の発展に大きく貢献しているが、今後はさらに環境容量の配慮が最重要課題となる。人類が持続的な発展をしていくためには、自然と共生した社会基盤の整備や地域の歴史や文化と調和のとれた創造的な都市づくりを実現できる技術者の養成が望まれている。

以上に基づき、環境都市工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備と、自然と共生・調和し環境負

荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識・考え方を理解し、人類の持続的発展を支える社会基盤整備を積極的に推進できる能力を身につけている技術者

学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

(A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。

(A-2) 環境都市工学にたずさわる技術者にとっての倫理の必要性を認識する。

(A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力を身につける

(B-1) 環境都市工学に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。

(B-2) 環境都市工学の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる基本的な能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける

(C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。

(C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 環境都市工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力を身につける。

(D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

(D-2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識を身につける。

(D-3) 環境システムデザイン工学の学問共通分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の知識と能力を身につける。

(D-4) 専門分野としての環境都市工学において以下の基本的な知識および考え方を身につける

(1) 人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備に関する基本的な知識および考え方を身につける。

(2) 自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識および考え方を身につける。

(D-5) 各自が環境都市工学の主要4分野（構造系、水理系、土質系、計画・環境系）の内、もっとも得意とする分野とは異なる分野にも興味を持ち、これらと得意とする分野の知識とを複合する能力の基礎を養う。

(E) 情報技術を身につける

情報機器を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた計画・構築・表現化の能力を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1 - 1 - -15

「養成すべき人材像及び学力・資質・能力」

建築学科で養成する人材像及び学習・教育目標

建築学科では、人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する技術と教養並びに、それらを総合化する能力を教授することにより、実践的技術者の育成と創造性の涵養を目標にしています。

以上に基づき、建築学科では以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げています。

建築学科準学士課程で養成すべき人材像

人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する基礎的技術と教養を有し、それらを包括的にとらえることのできる技術者。

建築学科で養成すべき学習・教育目標

(A) 倫理を身につける

(A-1) 歴史的な背景・文化を理解し、建設技術に起因する社会問題や環境問題を捉え、人間として、また、技術者としての倫理観を身につける。

(A-2) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重し、地球的規模で社会問題や環境問題を捉えるという人間としての倫理を身につける。

(A-3) 心身ともに健康な技術者であるために、感性を中心とする認識・表現能力、健康管理および体力を身につける。

(B) デザイン能力を身につける

(B-1) 建築に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。

(B-2) 建築学の基礎知識を活用し、分析して成果を論文や設計図面にまとめる総合的なデザイン能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける

(C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力を身につける。

(C-2) 英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 専門知識・能力を身につける

(D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

(D-2) 設計・情報・材料・力学等、工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。

(D-3) 建築学の周辺学際分野にも共通な分野（環境、エネルギー、計測、安全等）の知識と応用能力を身につける。

(D-4) 建築学の専門分野の基礎知識を身につけ、さらに、専門性とその体系化をはかるために、次の分野に必要とされる能力と技術を修得する。

(1) 建築・都市に関わる社会的・地域的な視点を養い、よりよい生活空間を機能的かつ芸術的観点から計画する能力と設計に必要な技術

(2) 建築室内および外部空間において、省エネルギーを考慮しつつ適正な環境を保持するための環境要素の予測、評価、調整の方法と設計に必要な技術

(3) 建築物の内外で安心して社会活動が営めるよう、構造上安全な建築空間ならびに構造形態を計画する能力と設計に必要な技術

(E) 情報技術を身につける

情報機器を使いこなし、表現化して説明できる能力を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1 - 1 - -16

「養成すべき人材像及び学力・資質・能力」

専攻科で養成する人材像および学習教育目標

人類が地球上で持続的に発展していくには、生産に関わる各種資源物質の枯渇の防止と、地球上の生態系に影響を及ぼす諸物質の拡散防止などへの配慮が欠かせない。このためこれからの「ものづくり」においては、人間の労働や知的活動を支援し、より快適な社会生活を営むための人工環境を提供する一方で、地球環境の保全や循環型社会の構築に関する配慮が重要となる。専攻科では、社会生活上必要な各種「機能」とそれを実現する「もの（機械、電気・電子機器、建築物、社会基盤）」、「空間（生活、都市、自然）」、「エネルギー」、「知識・情報」およびそれらの「制御・管理」などから構成される「環境システム」を、地球環境の保全を考慮に入れて構想し、設計し、生産する、総合的なデザイン能力を育成することを目的としている。

以上に基づき、専攻科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

<p>養成すべき人材像</p> <p>(電子システム工学専攻)</p> <p>より確かな専門知識とそれを応用しながら, 資源, エネルギーの有効利用および環境への配慮等を意識し, 自然環境と共生・調和したヒューマンフレンドリーな知的機能システムを開発でき, 異分野のシステム・技術を理解して, これと自らの分野にまたがるシステムを構築できる技術者</p> <p>(建設工学専攻)</p> <p>得意とする専門分野を深めそれを応用しながら, 自然環境と共生・調和した循環型社会の創造や社会生活を営む空間の構築とそれらを自然災害から守る防御システムの構築等を達成するための発展的思考力を持ち, 異分野のシステム・技術を理解して, これと自らの分野にまたがるシステムを構築できる技術者</p> <p>学習・教育目標</p> <p>(A) 倫理を身につける。</p> <p>(A-1) 地球的規模で社会問題や環境問題を捉える倫理観を身につける。</p> <p>(A?2) 科学技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理を身につける。</p> <p>(B) デザイン能力を身につける</p> <p>(B-1) 実務上の問題点や新たな課題を理解し, 豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。</p> <p>(B?2) 基礎知識を活用し, 着実に計画を継続して解析・実行し, 得られた成果を論文にまとめる総合的な能力を身につける。</p> <p>(C) コミュニケーション能力を身につける</p> <p>(C-1) 日本語で記述, 発表, 討論する能力を身につける。</p> <p>(C?2) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける。</p> <p>(D) 専門知識・能力を身につける。</p> <p>(D-1) 数学・自然科学の高度な知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。</p> <p>(D?2) 基礎工学(設計・システム, 情報・論理, 材料・バイオ, 力学, 社会技術)の高度な知識と能力を身につける。</p> <p>(D-3) 環境システムデザイン工学の専門共通分野(環境, 創生, エネルギー, 計測・制御, 安全等)の高度な知識と能力を身につける。</p> <p>(D?4) 最も得意とする専門分野のより高度な知識と能力を身につける</p> <p>(D?5) 異なる技術分野を理解し, 得意とする専門分野の知識と複合し, 人にも地球にも優しい環境システムを開発する能力を身につける。</p> <p>(E) 情報技術を身につける</p> <p>情報機器を使いこなし, 情報処理システムのプランを構築する能力を身につける。</p> <p style="text-align: right;">(出典 学生便覧)</p>

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程及び専攻科課程の目的を定め使命とすることを学則に示している。教育の基本方針は学生便覧に明示している。学校および学科, 専攻科で養成すべき人材像を定め, 学生便覧に示している。

準学士課程で達成しようとしている教育目標は以下の通りである。

- (1) 広い視野を持ち, 自立心と向上心に富み, 教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ, 創造力, 応用力, 実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

専攻科課程では, 以下の通りである。

- (1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに, 異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
- (2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し, 継続的に解析・実行・改善でき

る問題解決能力を備えた技術者の育成

(3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成

(4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成

(5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標を、(A)倫理、(B)デザイン能力、(C)コミュニケーション能力、(D)専門知識・能力((D-1)数学,自然科学,(D-2)基礎工学,(D-3)専門分野を含む学際分野,(D-4)専門分野,(D-5)異なる分野の理解と複合),(E)情報技術 に分類しその内容を定め、学生便覧やシラバスに明示している。

準学士課程では基礎的知識及びそれを応用する能力の取得を目標とし、専攻科課程では専門分野のより高度な知識の取得及び他の分野を理解しそれを複合する能力の取得を目標としている。

以上のように、目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等を明確に定めている。

観点 1 - 1 - : 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の目的は学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校一般に求められる目的を踏まえて策定した。教授内容及び職業に必要な能力は資料 1 - 1 - - 1 及び 1 - 1 - - 2 に示している。

資料 1 - 1 - - 1

「岐阜工業高等専門学校の概要」

1. 創立 昭和38年4月1日
2. 目的 工業関係の専門知識を教授し、実践的な技術の学習を通じて、高度の理論を實際面に活かす能力を持った人間を育成することを目的とします。

(出典 岐阜工業高等専門学校入学者募集要項)

資料 1 - 1 - - 2

「教授内容及び職業に必要な能力」

本校の教育は、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為な人材を育成すること」にあります。学生が社会で実践的技術者として活躍できるように、高等学校3年間と大学の前半2年間をあわせた修業年限5年間において、高等学校と同様な一般科目ならびに大学と同様な専門科目の中から、本校独自に精選した教育課程を編成し、効率的に5年間一貫教育を実施していることが特徴です。

専門学科は、それぞれ学科の特色を活かした教育課程を用意しており、社会の推移や要請に応じて教育課程自体も更新・改善され、学科ごとに受け入れ方針が示されています。本校で学修する専門科目の内容は大学レベルと同等であり、「ものづくり」教育を重視した様々な実験や実習を通じて、学んだ理論を広く応用し展開する実践的な能力を学生は習得することが可能となります。また、就業年限5年の本科の教育課程尾を修了後、本校の専攻科において、一段と深く専門分野に関する学芸を学修し、あわせて、学術研究活動を通じてその成果を社会に還元する道が開かれています。

(出典 学生便覧)

目的と、各学科・専攻科で養成する人材像とは資料 1 - 1 - - 3 の対応がある。

資料 1 - 1 - - 3

「人材像の目的との対応」

教務会議（第 20 回）資料

人材像と目的の対応

準学士課程の目的

「教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成する」

このうち「有為の人材を育成する」には

学校として養成する「科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者」が対応する。

「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成する」には以下の対応がある。

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を養い」に対応
一般科（人文）で養成する人材像のうち 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重し、社会問題を考えることができる広い視野と倫理観を持った人材	日本語で十分に受容・発信できるだけでなく、外国語でも異文化に偏見を持つことなく受容・発信でき、獲得した広い視野、高い見識、倫理観を実社会で活かすことができる人材
一般科（自然）で養成する人材像のうち 数学・物理・化学の基礎的な知識及び心身の健康についての知識を身につけた人材	数学・物理・化学の基礎的な知識を専門分野に応用する能力を持ち、健康的な生活を送ることができる人材
機械工学科で養成する人材像のうち 国際社会において機械技術者として活躍するための基礎学力を有した技術者	社会情勢の急激な変化に柔軟に対処できる情報処理能力と情報解析能力を備えた技術者
電気情報工学科で養成する人材像のうち 電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけた技術者	社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していける能力を身につけた技術者

<p>環境都市工学科で養成する人材像のうち 人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備と、自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識・考え方を理解する技術者</p>	<p>人類の持続的発展を支える社会基盤整備を積極的に推進できる能力を身につけている技術者</p>
<p>建築学科で養成する人材像のうち 人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法，環境調整及び構造安全性に関する基本的な知識・考え方を身につけた技術者</p>	<p>空間の構成技法，環境調整及び構造安全性に関する技術を総合化できる技術者</p>
<p>専攻科課程の目的 「高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導すること」</p>	
<p>「精深な程度において工業に関する高度な専門的知識」に対応</p>	<p>「精深な程度において工業に関する高度な技術」に対応</p>
<p>電子システム工学専攻で養成する人材像のうち 機械工学，電気情報工学，あるいは電子制御工学のより確かな専門知識とそれを応用できる技術者</p>	<p>資源，エネルギーの有効利用および環境への配慮等を意識し，自然環境と共生・調和したヒューマンフレンドリーな知的機能システムを開発できる技術者 異分野のシステム・技術を理解し，これと自らの分野にまたがるシステムを構築できる技術者</p>
<p>建設工学専攻で養成する人材像のうち 環境都市工学あるいは建築学の得意とする専門分野を深めるとともに，それを応用できる技術者</p>	<p>自然環境と共生・調和した循環型社会の創造や社会生活を営む空間の構築とそれらを自然災害から守る防御システムの構築等を達成するための発展的思考力をもつ技術者 異分野のシステム・技術を理解し，これと自らの分野にまたがるシステムを構築できる技術者</p>
<p>(出典 教務会議(平成17年度第20回)資料)</p>	

各学科・専攻科で養成する学力及び資質・能力とは資料 1 - 1 - - 4 の対応がある。

資料 1 - 1 - - 4

「学力及び資質・脳直と目的との対応」

教務会議 (平成 17年度第 21 回)資料

養成する学力及び資質・能力と目的との対応

準学士課程の目的

「教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成する」

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を養い」に対応
養成する学力	養成する資質・能力
<p>一般科目</p> <p>(A-1)人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。</p> <p>(D-1)数学・自然科学の基礎知識を身につける。</p>	<p>一般科目</p> <p>(A-3)心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。</p> <p>(C-1)日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。</p> <p>(C-2)英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。</p> <p>(D-1)数学・自然科学の基礎知識を用いた問題解決能力を身につける。</p>
<p>機械工学科</p> <p>(A-2)機械技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する機械技術者としての倫理観の基礎を身につける。</p> <p>(D-2)基礎工学(設計・システム、情報・論理、材料、力学)の基礎知識を身につける。</p> <p>(D-3)機械工学のうち、その周辺学際分野にも共通な分野(環境、創生、エネルギー、計測・制御、安全等)の知識を身につける。</p> <p>(D-4)機械設計技術者としての基礎知識を身につける。</p>	<p>(B-1)機械技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力の基礎を身につける。</p> <p>(B-2)機械工学の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力の基礎を身につける。</p> <p>(D-2)基礎工学(設計・システム、情報・論理、材料、力学)の能力を身につける。</p> <p>(D-3)機械工学のうち、その周辺学際分野にも共通な分野(環境、創生、エネルギー、計測・制御、安全等)の能力を身につける。</p> <p>(D-4)機械設計技術者として、深度化と体系化を図るため次の4つの能力を修得する。</p> <p>(1)強度が保証され安全に利用することができる機械を設計するための材料の力学に関する能力</p> <p>(2)空気あるいは液体などの流体の力学的挙動を把握し、これを機械設計に適用する能力</p> <p>(3)機械の動力、あるいは利用効率に関わる物質の熱的な挙動を力学的に評価し、これを機械設計に適用する能力</p>

	<p>(4) 機械の運動，あるいは振動についての力学的挙動を理解し，これを機械設計に適用する能力</p> <p>(D - 5) 機械工学とは異なる技術分野にも興味を持ち，これらと機械工学の知識とを複合する能力の基礎を養う。</p>
<p>電気情報工学科</p> <p>(A-2) 各専門学科の技術が地球環境に及ぼす影響等を自覚する技術者としての倫理観の基礎を身につける。</p> <p>(D - 2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等，工学技術の基礎知識とその応用能力を身につける。</p> <p>(D - 3) 電気・電子・情報工学の周辺学際分野の共通分野（環境，エネルギー，計測・制御，創生，安全等）の基礎知識とその応用能力を身につける。</p> <p>(D - 4) 電気電子コース・情報コースにて，両コースに共通する基礎知識をバランス良く身につけるとともに，社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していける能力を身につける。</p> <p>(1) 電気・電子・情報工学の基礎となる主要な知識を身につけ，その応用能力を身につける。</p> <p>(2) 電気電子コースでは，電気・電子工学分野の基礎知識を身につけ，応用的な専門技術や知識を自立的に修得していける能力を身につける。</p> <p>(3) 情報コースでは，電子・情報工学分野の基礎知識を身につけ，応用的な専門技術や知識を自立的に修得していける能力を身につける。</p>	<p>電気情報工学科</p> <p>(B - 1) 電気・電子・情報に関する技術上の問題点や新たな課題を理解し，豊かな発想で問題を解決していくための計画を立てる能力を身につける。</p> <p>(B - 2) 電気・電子・情報工学の基礎知識を活用して計画を実行し，得られた成果を解析して論文にまとめていく総合的なデザイン能力を身につける。</p> <p>(D - 2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等，工学技術の基礎知識とその応用能力を身につける。</p> <p>(D - 3) 電気・電子・情報工学の周辺学際分野の共通分野（環境，エネルギー，計測・制御，創生，安全等）の基礎知識とその応用能力を身につける。</p> <p>(D - 4) 電気電子コース・情報コースにて，両コースに共通する基礎知識をバランス良く身につけるとともに，社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していける能力を身につける。</p> <p>(1) 電気・電子・情報工学の基礎となる主要な知識を身につけ，その応用能力を身につける。</p> <p>(2) 電気電子コースでは，電気・電子工学分野の基礎知識を身につけ，応用的な専門技術や知識を自立的に修得していける能力を身につける。</p> <p>(3) 情報コースでは，電子・情報工学分野の基礎知識を身につけ，応用的な専門技術や知識を自立的に修得していける能力を身につける。</p>
<p>電子制御工学科</p> <p>(A - 2) 電子制御技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理観を身につける。</p> <p>(D - 2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等，工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。</p> <p>(D - 3) 電子制御工学の周辺学際分野にも共通な分野（環境，エネルギー，計測・制御，創生，安全等）の知識と応用能力を身につける。</p> <p>(D - 4) (1)電気・電子工学を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。</p>	<p>電子制御工学科</p> <p>(B - 1) 電気・電子，情報・制御，機械に関する技術上の問題点や新たな課題を理解し，豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。</p> <p>(B - 2) 電気・電子，情報・制御，機械の基礎知識を活用し，着実に計画を継続して解析・実行し，得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力を身につける。</p> <p>(D - 2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等，工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。</p> <p>(D - 3) 電子制御工学の周辺学際分野にも共通な分野（環境，エネルギー，計測・制御，創生，安全等）の知識と応用能力を身につける。</p> <p>(D - 4) (1)電気・電子工学を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。</p>

<p>(2)制御・情報・機械を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。 (E)情報機器を使って、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた企画・構築・表現化などを行うための基礎知識と能力を身につける。</p>	<p>(2)制御・情報・機械を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。 (E)情報機器を使って、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた企画・構築・表現化などを行うための基礎知識と能力を身につける。</p>
<p>環境都市工学科 (D-2)設計・システム・情報・論理・材料・力学等，工学技術の基礎知識を身につける。 (D-3)環境システムデザイン工学の学問共通分野（環境，エネルギー，計測・制御，創生，安全等）の知識を身につける。 (D-4(1))人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備に関する基本的な知識および考え方を身につける。 (D-4(2))自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識および考え方を身につける。 (E)情報機器を使いこなし，専門分野で必要とされるプログラミングなど，情報処理システムを用いた計画・構築・表現化の知識を身につける。</p>	<p>環境都市工学科 (B-1)環境都市工学に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し，自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。 (B-2)環境都市工学の基礎知識を活用し，着実に計画を継続して解析・実行し，得られた成果を論文にまとめる基本的な能力を身につける。 (D-3)環境システムデザイン工学の学問共通分野（環境，エネルギー，計測・制御，創生，安全等）の応用力を身につける。 (D-5)各自が環境都市工学の主要4分野（構造系，水理系，土質系，計画・環境系）の内，もっとも得意とする分野とは異なる分野にも興味を持ち，これらと得意とする分野の知識とを複合する能力の基礎を養う。 (E)専門分野で必要とされるプログラミングなど，情報処理システムを用いた計画・構築・表現化の能力を身につける。</p>
<p>建築学科 (A-2)地球環境や社会に及ぼす影響等に対する責任を自覚する建築技術者としての倫理観を身につける。 (D-2)設計・情報・材料・力学等，工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。 (D-3)建築学の周辺学際分野にも共通な分野（環境，エネルギー，計測，安全等）の知識と応用能力を身につける。 (E)情報機器を使いこなし，表現化して説明できる能力を身につける。</p>	<p>建築学科 (B-1)建築に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し，豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。 (B-2)建築学の基礎知識を活用し，分析して成果を論文や設計図面にまとめる総合的なデザイン能力を身につける。 (D-4)建築・都市に関わる社会的・地域的な視点を養い，よりよい生活空間を機能的あかつ芸術的観点から計画する能力を身につけ，設計に必要な技術を習得する。 建築室内および外部空間において，省エネルギーを考慮しつつ適正な環境を保持するための環境要素の予測，評価，調整の方法を身につけ，設計に必要な技術を習得する。 建築物，建造物の内外で安心して社会生活が営めるよう，構造上安全な建築空間ならびに構造形態を計画する能力を身につけ，設計に必要な技術を習得する。 (E)情報機器を使いこなし，表現化して説明できる能力を身につける。</p>

<p>専攻科課程の目的 「高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導すること」</p>	
「精深な程度において工業に関する高度な専門的知識」に対応	「精深な程度において工業に関する高度な技術」に対応
養成する学力	養成する資質・能力
<p>(A-1) 地球的規模で社会問題や環境問題を捉える倫理観を身につける。 (A-2) 科学技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理を身につける。 (D-1) 数学・自然科学の高度な知識を身につける。 (D-2) 基礎工学（設計・システム，情報・論理，材料・バイオ，力学，社会技術）の高度な知識を身につける。 (D-3) 環境システムデザイン工学の専門共通分野（環境，創生，エネルギー，計測・制御，安全等）の高度な知識を身につける。 (D-4) 最も得意とする専門分野のより高度な知識を身につける (E) 情報技術を身につける 情報機器を使いこなし，情報処理システムのプランを構築する知識を身につける。</p>	<p>(B-1) 実務上の問題点や新たな課題を理解し，豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。 (B-2) 基礎知識を活用し，着実に計画を継続して解析・実行し，得られた成果を論文にまとめる総合的な能力を身につける。 (C-1) 日本語で記述，発表，討論する能力を身につける。 (C-2) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける。 (D-1) 数学・自然科学の高度な知識を用いた問題解決能力を身につける。 (D-2) 基礎工学（設計・システム，情報・論理，材料・バイオ，力学，社会技術）の応用能力を身につける。 (D-3) 環境システムデザイン工学の専門共通分野（環境，創生，エネルギー，計測・制御，安全等）の応用能力を身につける。 (D-4) 最も得意とする専門分野の応用能力を身につける (D-5) 異なる技術分野を理解し，得意とする専門分野の知識と複合し，人にも地球にも優しい環境システムを開発する能力を身につける。 (E) 情報技術を身につける 情報処理システムのプランを構築する能力を身につける。</p>
<p>（出典 教務会議（平成17年度第21回）資料）</p>	

（分析結果とその根拠理由）

学則に定めた本校の目的は学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的を踏まえて策定し，教授内容及び職業に必要な能力(資料1-1-1及び1-2)を示している。社会の要請に応じて教育課程を編成し，各学科の目標として明確(資料1-1-2)にしている。

準学士課程の「教育基本法にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，有為の人材を育成する」こと，専攻科課程の，「高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導すること」は，各学科・専攻科で養成する人材像とは資料1-1-3の対応がある。

教授される深い専門の学芸及び職業に必要な能力として「工業関係の専門知識を教授し，実践的な技術の学習を通じて，高度の理論を実際面に活かす能力」を募集要項に掲げ，学生便覧には「社会の推移や要請に応じて教育課程自体も更新・改善され」として，高等専門学校に期待されている能力を設定している。内容は大学レベルと同等であり，「ものづくり」教育を重視した様々な実験や実習を通じて，学んだ理論を広く応用し展開する実践的な能力と高等専門学校にふさわしいものである。また，専攻科は「就業年限5年の本科の教育課程尾を修了後，本校の専攻科において，一段と深く専門分野に関する学芸を学修し，あわせて，学術研究活動を通じてその成果を社会に還元する」ものであ

り，専攻科にふさわしい能力である。人材像，養成する学力及び資質・能力は準学士課程では基礎的な知識・能力，専攻科課程では高度な知識・能力と明確に区別している。

以上のように，本校の目的は高等専門学校一般に求められる目的から，はずれるものではない。

観点 1 - 2 - : 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

教育目的、教育方針等を学生便覧に明記し、教育に関係する教職員に配布している。4月の教員会議で、教育目的、教育理念、教育方針、教育目標等（資料 1 - 2 - - 1）を配布し周知している。

「教育目的，教育理念，教育方針，教育目標等」

平成18年度主管会議（第1回）資料

平成18年度運営会議（第1回）資料

平成18年度教員会議（第1回）資料

岐阜工業高等専門学校の教育の目的・目標について

1. 教育の目的

準学士課程

岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。

専攻科課程

高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

2. 教育の基本方針

本校への多様な役割が期待される中において、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することが本校の教育方針である。教育理念、教育目標及びその具体的な内容は不断に改善し、計画的に教育・研究活動を実行する。より具体的には、以下に示すような「教育理念」、「養成すべき人材像」及び「教育目標」を高く掲げ、教職員はその目標に向かって努力する。

3. 教育理念

- (1) 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
- (2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
- (3) 情報化社会の最前線で活動すること。

4. 養成すべき人材像

科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者

5. 教育目標

準学士課程

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

専攻科課程

- (1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
- (2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
- (3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
- (4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
- (5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

6. 各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標

(A) 倫理，(B) デザイン能力，(C) コミュニケーション能力，(D) 専門知識・能力，(E) 情報技術

本校の標語

(1) 国際化, (2) IT, (3) ものづくり (C) コミュニケーション能力, (E) 情報技術, (B) デザイン能力
 教務の標語

(1) 広い教養, (2) 深い専門 (A) 倫理, (D) 専門知識・能力

7. 教育目標(準学士課程)の具体的な学習・教育目標への展開及び対応学科

目標	(1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成	(2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成	(3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成	(4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成	(5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成
(A-1) 倫理	人文・自然			人文	
(A-2) 技術者倫理				専門	専門
(A-3) 芸術・体育	人文・自然				
(B-1) 計画能力	専門	専門			専門
(B-2) 実践能力	専門	専門			専門
(C-1) 日本語			人文		
(C-2) 外国語			人文		
(D-1) 理学		自然・専門基礎			
(D-2) 基礎工学		専門			
(D-3) 専門共通		専門			
(D-4) 専門		専門			専門
(D-5) 異分野		専門			
(E) 情報技術		専門			

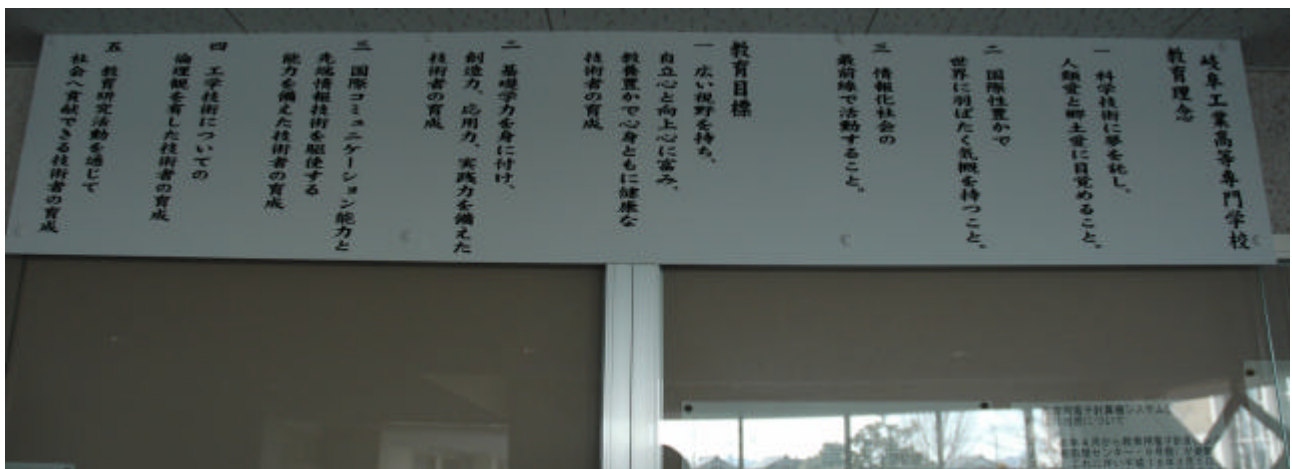
は主体的に対応,

(出典 教員会議(第1回)報告事項資料)

教育に関係する職員には、教員会議資料を課長・係長を經由して周知している。学校の教育目標は学生が毎朝見る掲示板上部にパネルで掲示している。(資料1-2--2)

資料1-2--2

「学校の教育目標のパネル掲示」



(出典 パネル掲示)

学生便覧を入学時に全員に配布し、新入生校内研修において説明している。(資料1-2--3)

資料 1 - 2 - - 3

「パワーポイント資料」

本校の教育理念

- (1) 科学技術に夢を託し，人類愛と郷土愛に目覚めること。
- (2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
- (3) 情報化社会の最前線で活動すること。

本校の教育目標

- (1) 広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

(出典 新入生校内研修教務主事講話)

年度始めの学級担任会において，学校の目標を教室に掲示し，学生便覧を2部配布し，学生に説明するよう依頼している。学級担任会のレジュメを資料 1 - 2 - - 4 に示す。

資料 1 - 2 - - 4

「学生への説明依頼」

平成18年4月5日学級担任会議資料

学級担任会議(第1回)教務関係

1：平成18年度の教育目標等について

- (1) 本校の教育目的・目標について 資料 1
全ての学級で，資料 1 の内容を説明し，教室に掲示して周知してください。
- (2) 「環境システムデザイン工学」教育プログラムの学習・教育目標について 資料 2
本科3年以上の学級で資料 2 の内容を説明し，教室に掲示して周知してください。
- (3) 周知の確認について
学生アンケートにより確認します。

(出典 学級担任会(第1回)資料より抜粋)

教職員及び学生に周知されているかどうかのアンケート結果を資料 1 - 2 - - 5 に示す。

資料 1 - 2 - - 5

「アンケート結果」

教務会議（第25回）

教育目標の周知に関するアンケート（卒業時）

設問

本校には下記の五つの目標があります。知っていましたか？

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

専門学科では五つの目標(倫理、デザイン、コミュニケーション、専門、情報)をあげています。知っていましたか？

教務では二つの目標（広い教養、深い専門）をあげています。知っていましたか？

校長先生が三つの目標（英語、IT、ものづくり）をあげています。知っていましたか？

基準

5：よく知っている。 4：だいたい知っている。 3：何とか知っている。

2：あまり知らない。 1：全く知らない。

各学科の平均値

目標	機械 工学科	電気情報 工学科	電子制御 工学科	環境都市 工学科	建築学科	平均
学校	2.4	2.7	2.2	1.9	2.0	2.2
学科	2.4	2.4	2.2	1.6	1.7	2.1
教務	2.7	3.4	2.7	2.2	2.2	2.6
校長	3.3	3.9	3.6	2.8	2.9	3.3
平均	2.7	3.1	2.7	2.1	2.2	2.6

周知方法

学校：学生便覧配布（第1学年）、学級担任（毎年）、教室掲示

学科：学生便覧配布（第1学年）、学科長

教務：教務主事訓話（年一回×五年間）、校内掲示

校長：入学式、校長講和（年三回×五年間）

（出典 平成17年度教務会議（第25回）資料）

教職員に対しても同様のアンケートを実施した。結果を資料1 - 2 - - 6 に示す。

資料1 - 2 - - 6

「アンケート結果」

教務会議（第25回）資料

教育目標の周知に関するアンケート（教職員）

設問

本校には下記の五つの目標があります。ご存知ですか？

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成

(4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成

(5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

専門学科では五つの目標(倫理, デザイン, コミュニケーション, 専門, 情報)をあげています。ご存知ですか?

教務では二つの目標(広い教養, 深い専門)をあげています。ご存知ですか?

校長先生が三つの目標(英語, IT, ものづくり)をあげています。ご存知ですか?

基準

5 : よく知っている。 4 : だいたい知っている。 3 : 何とか知っている。

2 : あまり知らない。 1 : 全く知らない。

各段階の回答者率(%) , 平均は段階の平均値

目標	教 員						職 員					
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
学校	25.8	35.5	25.8	12.9	0	3.7	9.1	36.4	18.2	18.2	18.2	3.0
学科	48.3	19.4	16.1	9.7	6.5	3.9	27.3	9.1	0	55.6	9.1	2.9
教務	67.7	25.8	0	3.2	3.2	4.5	9.1	18.2	27.3	27.2	18.2	2.7
校長	74.2	25.8	0	0	0	4.7	18.2	36.4	27.3	9.1	9.1	3.5

周知方法

学校 : 学生便覧配布(教員・職員関係者 : 毎年) , パネル掲示 , 教員会議資料

学科 : 学生便覧配布(教員・職員関係者 : 毎年) , 教員会議資料

教務 : 教務主事訓話(年一回×五年間) , 校内掲示 , 教員会議資料

校長 : 入学式 , 校長講和(年三回×五年間) , 教員会議資料

(出典 平成17年度教務会議(第25回)資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目的及び教育方針等を学生便覧に明記し, 教育に係る教職員全員に配布している。

4月の教員会議で, 教育目的, 教育理念, 教育方針, 教育目標等を配布し周知している。

新入生研修において入学生に学生便覧を配布し, パワーポイントを併用して教育方針, 教育理念, 教育目標等について説明している。第2学年以上は各教室に2部配布される。

共通の掲示板及び各学級にも掲示している。教職員が身につけている名札の裏にも記載している。

中期目標は教員会議において全ての教員に配布し, 職員には課長, 係長から周知している。

学生アンケートから, 標語については周知している。教職員アンケートから, 教員はよく周知している。職員は, 校長の目標については大体周知し, 教務及び学科の目標は何とか周知している。

以上より, 目的はおおむね学校の構成員に周知している。

観点1-2- : 目的が, 社会に広く公表されているか。

(観点到係る状況)

ウェブ(資料1-2--1)で教育目標等を社会に公表している。学校案内には, 本校が求める入学者像(資料1-2--2), 及び卒業時に身につけるべき資質を数字で示した具体的な裏付け資料としての「卒業者・修了者の就職・大学編入等進路状況」(資料1-2--3)を掲載し, 中学校生徒, 保護者, 教員を対象とした学校説明会(資料1-2--4), 中学校訪問(資料1-2--5), 岐阜高専見学会(資料1-2--6)で説明している。進路説明会で配布する入学者募集要項(資料1-2--7)に記載し, パワーポイント(資料1-2--8)で紹介している。

地区保護者懇談会(資料1-2--9)で教育目標等の説明を行い, 保護者を通じて周囲の中学生及びその保護者への情報浸透がなされるよう努めている。また, 教育目標等を掲載した学校要覧を近隣の高等教育機関, 教育委員会, 就職関係企業, 中学校等に配布(資料1-2--10)している。

ウェブページによる教育目標等（基本方針・理念・重点）の公表

岐阜高専の教育目標

1/2 ページ

独立行政法人 国立高等専門学校機構 JABEE認定校

岐阜工業高等専門学校

Gifu National College of Technology

| [トップページ](#) > 教育目標 |

新着情報

+ 学校要覧 +

- ▶ [校長挨拶](#)
- ▶ [教育目標](#)
- ▶ [沿革](#)
- ▶ [交通アクセス](#)
- ▶ [JABEEへの取組み](#)

+ 施設案内 +

- ▶ [事務局](#)
- ▶ [図書館](#)
- ▶ [情報処理センター](#)
- ▶ [実習工場](#)
- ▶ [学生寮](#)

+ その他 +

- ▶ [情報公開](#)
- ▶ [求人依頼案内](#)
- ▶ [各種連絡先](#)

+ LINK +

- ▶ [国立高等専門学校機構](#)
- ▶ [日本技術者教育認定機構\(JABEE\)](#)
- ▶ [岐阜県研究開発財団](#)
- ▶ [ソフトピアジャパン](#)
- ▶ [国際ネットワーク大学コンソーシアム](#)
- ▶ [岐阜県](#)
- ▶ [本巣市](#)

教育目標の基本方針

岐阜高専は、中学校卒業後の早い段階から、実験・実習・実技などの体験的な学習を重視したきめ細やかな少人数教育を行うことにより、産業界に実践的技術者を継続的に送り出しており、また、近年ではより高度な知識技術を得るために卒業生の4割以上を専攻科への進学や大学編入学生として送り出している。

さらに、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への強化に乗り出したところである。

このように岐阜高専には様々な役割が期待される中、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来的な魅力を一層高めていかなければならない。また、産業構造の変化などを踏まえ、創造力に富み、人間性豊かな技術者の育成という視点に立って、岐阜高専における教育の内容も不断に見直し、計画的に改革する必要がある。

こうした認識のもと、大学とは異なる高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化することを基本方針とする。

教育理念

1. 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
2. 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
3. 情報化社会の最前線で活動すること。

教育目標

1. 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
2. 基礎学力を身に付け、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
3. 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
4. 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
5. 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

重点目標

- 創造的才能の開発と、それを実現できる技術的能力の育成
ロボット、プログラム、エコランなどの技術的コンテストへの参加
- 多様化の進む技術に対応できる技術教育
環境問題 新エネルギー開発 生物工学 など多分野にわたる
- 情報教育・研究の推進
マルチメディア利用による遠隔授業、研究情報の交換
CG、CADなどの情報ソフト利用による技術と芸術の融合

<http://www.gifu-nct.ac.jp/hp2004a/outline/info.html>

2006/03/23

(出典 本校ウェブページ)

岐 阜高専はこんな皆さんに入学して欲しい!!

「将来の進路は大学受験の時に決めよう」と思っている人も少なくないでしょう。

でも、ちょっと考えてみてください。

高校に行っても、2年生には文系、理系を決めなくてはなりません。

中学校卒業を、自分の将来を考えるひとつのきっかけにしてみませんか。

学科の選択に迷ったら…、
これを読んで自分に合った学科を見つけよう！

機械工学科はこんな人に入学して欲しい！

- ・ラジコンカーや模型作りなど、「ものづくり」が好きな人
- ・自転車やバイク、自動車などの、「機械のしくみ」に興味のある人
- ・電気自動車やソーラーカーなど、エネルギーの有効利用に興味のある人
- ・地球環境や材料のリサイクルに関心のある人
- ・コンピュータを使って機械を設計してみたい人



電気情報工学科はこんな人に入学して欲しい！

- ・電気、電子、情報の技術に興味のある人
- ・エネルギーや地球環境などの問題解決に挑戦したい人
- ・自分で考えるコンピュータの製作などの夢に挑戦したい人
- ・いろんなことに好奇心旺盛で、アイデアや創造性が豊かな人
- ・思いを行動に移し、挑戦できる人



電子制御工学科はこんな人に入学して欲しい！

- ・人のように知的に動作するロボットを作ってみたい人
- ・IT(情報技術)に興味があり、知的なソフトウェアを作ってみたい人
- ・ロボットの設計から製作までの技術を学んでみたい人
- ・福祉や介護など人をサポートする技術に興味のある人
- ・電気電子、機械、情報、制御技術を融合したシステム作りをしてみたい人

環境都市工学科はこんな人に入学して欲しい！

- ・公務員になって地域住民や国民の生活基盤の向上に役立ちたい人
- ・人に優しく自然と調和した都市を創造したい人
- ・明石海峡大橋やリニア中央新幹線など地図に残る仕事をしたい人
- ・21世紀の環境問題に積極的に取り組む情熱のある人
- ・クラブ活動や生徒会活動でリーダーシップを発揮できる人

建築学科はこんな人に入学して欲しい！

- ・災害に強い、より安全な居住空間の構築に興味のある人
- ・自分の美的主張を建築物という形で実現したい人
- ・様々な人間感覚を物理的数値で確かめてみたい人
- ・建物の寿命、経済性、省エネに興味のある人
- ・住宅、高層ビル、歴史的建造物に強い関心を持っている人

こんな皆さんだったら、
岐阜高専で有意義な
学生生活を過ごすことが
できると思います。

数学や理科が好きな人

得意でなくても大丈夫。数学や理科が好き
だったら工学もきっと好きになります。

もの作りで

自分の夢を実現したい人

他の人が作ったものを使うだけなんてつま
らないと思いませんか。
自分で考えて設計してものを作り上げる。
自分の夢が形になる喜びを味わってみませ
んか！

目標を見つけて

努力できる人

高校に比べたら自由で時間もいっぱいあ
ります。そのたくさんある時間を有意義に
過ごせるかはあなた次第！
自分で目標を見つけて努力できる人ならば
充実した5年間を過ごせることと思います。

(出典 学校案内 2006)

学校説明会実績

(3) 学校説明会

会場（開催日）	出席者	16 年度出席者
本校(9/26)	5	16
恵那(10/6)	21	34
彦根(10/11)	12	22
本校(10/12)	18	32
一宮(10/13)	23	26
本校(10/16)	71	74
美濃(9月10/24)	27	33
高山(10/25)	19	10
海津(10/26)	8	9
本校(11/11)	44	40
計	248	296

(出典 教務掲示板・平成 17 年度中学校向け広報の総括と次年度への提言・抜粋
[= 学内用 Web])

中学校訪問実績

(1) 広報対象中学校 207 校

(内訳)

OB 訪問：3 校

説明会：12 校

説明会&OB 訪問：2 校

説明会&出前授業：1 校

説明会&出前授業&訪問：1 校

説明会&教職員訪問：4 校

出前授業：7 校

出前授業&OB 訪問：1 校

教職員訪問：173 校

教職員訪問&OB 訪問：4 校

(出典 教務掲示板・平成 17 年度中学校向け広報の総括と次年度への提言・抜粋
[= 学内用 Web])

岐阜高専見学会実績

(4) 岐阜高専見学会

参加人数：696 名 (16 年度 997 名, 15 年度 734 名)

(出典 教務掲示板・平成 17 年度中学校向け広報の総括と次年度への提言・抜粋

[= 学内用 Web])

3 学生受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

岐阜工業高等専門学校は、

- ・ 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること
 - ・ 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと
 - ・ 情報化社会の最前線で活動すること
- を教育理念とし、本科 5 年間で専攻科 2 年間にわたって、一貫した教育課程のもとで、人間性豊かな倫理観を備えた技術者の育成を目指します。

岐阜工業高等専門学校の本科は、

- ・ 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
 - ・ 基礎学力を身に付け、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
 - ・ 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
 - ・ 工業技術についての倫理観を有した技術者の育成
 - ・ 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成
- を教育目標としています。これらの目標を達成できる資質を持った人の応募を期待し、以下のような能力を総合的に身につけている人を受け入れます。

- ・ 基礎学力及び幅広い能力がある人
- ・ 「英語」、「国語」及び理系科目が得意な人
- ・ 何事にも積極的に取り組むことができる人
- ・ 倫理観のある人

各学科で受け入れたい人物像

「機械工学科」

- 1) 数学と理科を得意科目とし、広く「ものづくり」に興味があり、自動車などの生活に役立つ機械を設計・製作する機械技術者になることを強く希望している人
- 2) 目標を達成することの喜びを知り、たゆまない努力をする覚悟のある人

「電気情報工学科」

- 1) 電気・電子・情報関連の技術に興味のある人や、エネルギーや地球環境などの問題解決に挑戦したい人
- 2) いろいろなことに好奇心旺盛でアイデアや創造力が豊かな人、それらの思いを行動に移し、挑戦できる人

〔電子制御工学科〕

- 1) 数学や理科及び英語を得意とし、ものづくりに関心があり、ロボットなど電子制御システムに関わる技術者になることを強く目指す人
- 2) 環境に配慮した電子制御システムづくりに積極的にチャレンジし、好奇心旺盛で向上心があり粘り強く頑張ることのできる人

〔環境都市工学科〕

- 1) 自然と調和した社会基盤（道路・鉄道・エネルギー・上下水道など生活や産業を支えているもの）の整備と、自然災害に強い安全な都市の創造について学びたい人
- 2) 公共事業に携わる技術者として社会に貢献したい人
- 3) 元気がありリーダーシップを発揮できる人

〔建築学科〕

- 1) 技術・家庭および美術が得意で、社会と文化にも関心を持ち、建築に関わる技術者になることを強く目指している人
- 2) 環境との関わりを考えつつ、多種多様な意見をまとめ、個性豊かな建築をデザインしたい人

（出典 入学者募集要項）

進路説明会におけるパワーポイント資料

本日の説明会の内容



1. 高等専門学校とは？
2. 岐阜高専の概要
3. カリキュラム 部活動
4. 卒業後の進路
5. 学寮など

Ver.H15.6.6

GNCT

2/20

(出典 進路説明会資料)

平成 17 年度 地区保護者懇談会日程表

岐阜工業高等専門学校 教育後援会

地区・月日	会場	場	日	程	地域
飛騨地区 11月5日(土)	高山市民文化会館	高山市昭和町1 TEL.0577-33-8333 会費 なし	12:30～13:00 13:00～13:45 13:45～15:45	受付 校務報告 学年別懇談会	高山市、下呂市、大野郡 飛騨市、古城郡
東濃地区 11月5日(土)	恵那市中公民館 (昨年度と変更)	恵那市長島町正家1-3-27 TEL.0573-26-1808 会費 なし	12:30～13:00 13:00～13:45 13:45～15:45	受付 校務報告 学年別懇談会	多治見市、中津川市、 瑞浪市、恵那市、土岐市、 土岐郡、恵那郡
滋賀県地区 11月6日(日)	彦根勤労福祉会館	彦根市大東町4-28 TEL.0749-23-4141 会費 なし	12:30～13:00 13:00～13:45 13:45～15:45	受付 校務報告 学年別懇談会	滋賀県全域
岐阜地区 11月6日(日)	本校	本巣市上真桑 TEL.058-320-1211 会費 なし	12:30～13:00 13:00～13:45 13:45～15:45	受付 校務報告 学科別懇談会	岐阜市、羽島市、各務原市、羽島 郡、山県市、県外(愛知県、滋 賀県を除く)、専攻科
愛知県地区 11月12日(土)	一宮市産業体育館	一宮市野口1 TEL.0586-45-0508 会費 なし	13:00～13:15 13:15～14:00 14:00～16:00	受付 校務報告 学年別懇談会	愛知県全域
美濃・可茂地区 11月13日(日)	関勤労者総合福祉センター・アピセ・関	関市平和通7-1 TEL.0575-24-6767 会費 なし	12:30～13:00 13:00～13:45 13:45～15:45	受付 校務報告 学年別懇談会	関市、美濃市、武儀郡、 郡上市、美濃加茂市、 可児市、可児郡、加茂郡
西濃地区 11月13日(日)	本校	本巣市上真桑 TEL.058-320-1211 会費 なし	12:30～13:00 13:00～13:45 13:45～15:45	受付 校務報告 学科別懇談会	大垣市、揖斐郡、本巣市、 海津郡、養老郡、不破郡、 安八郡 瑞穂市、本巣郡

* 会場準備の関係で該地区へご出席下さい。

(出典 寮務掲示板・平成 17 年度保護者懇談会日程表[= 学内用 Web])

学校要覧発送先

教育機関等への配布

国立高専 54 校 公立高専 5 校 私立高専 3 校 東海・北陸大学 9 校(富山・金沢・福井・岐阜・静岡・名古屋・名工・豊橋技術・三重) 名誉教授 25 名 国会図書館 2 部 (独)国立高等専門学校機構 1 部 …… 計 98 件

平成 17 年度各種イベントによる配布

第 4 回京都産官学推進会議 6/25, 26 内閣府等主催

CITIMESin 岐阜 7/14, 15 岐阜県主催

○第 1 回ものづくり岐阜テクノフェア 2005 9/30, 10/1, 2 (社)岐阜県工業会等主催

○「岐阜地域大学・高専情報発信コーナー 2005」 11/14～19 岐阜市主催

三学連携技術相談会・情報懇談会 11/28 十六銀行主催(約 50 社)

岐阜工業高等専門学校・産官学交流懇談会(テクノシンポジウム 2005) 12/2 (約 100 社)

(出典 庶務課所蔵資料)

(分析結果とその根拠理由)

資料に示されたように、教育目標等はウェブサイトで公開されている。求められる入学者像と卒業時に身に付けるべき資質は学校案内等で説明されている。教育目標等が掲載された学校要覧が、高等教育機関、中学校等に配布されている。以上により、目的が社会に広く公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育方針、教育理念、教育目標等に、人類愛を謳い、環境を意識した教育を行っている点、郷土愛を謳い、教育・研究を通じて地域社会への貢献を取り入れている点、国際性を意識し、国際コミュニケーション能力を重視している点及び情報教育を重点に取り上げている点に、本校の特色がある。

三つの教育理念及び五つの教育目標を、(A)倫理、(B)デザイン能力、(C)コミュニケーション能力、(D)専門知識・能力(E)情報技術、に展開し、分類の記号をシラバスに記載している。

中学校訪問(200校)、高専見学会(参加者 700名)、一日入学(300名)、出前授業(25校)、本校主催の進路説明会(8回)、中学校主催の進路説明会(25回)、塾への訪問(5箇所)、本校への中学校長会・PTA 来校(3回)を平成 17 年度に実施し、本校の教育方針等を周知した。

(改善を要する点)

社会への広報はホームページによるところが多く、より積極的な方策を考える必要がある。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

準学士課程は、「教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成すること、専攻科課程は、「高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導すること」を使命とし、基本方針は「高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成する」、人材像は、「科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者」である。

達成しようとしている教育目標は、準学士課程では

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成

- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成
専攻科課程では，
 - (1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに，異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
 - (2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し，継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
 - (3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
 - (4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
 - (5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ，技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

である。各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標を(A)倫理,(B)デザイン能力,(C)コミュニケーション能力,(D)専門知識・能力,(E)情報技術に分類して定め，学生便覧，学校要覧，学校案内，ウェブ等により，学校の構成員に周知し社会に広く公開している。